



NO.

いちよ

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

しつぷぶつしよ
悉有仏性

住職 平田真純

先だつて当山にて開催されました「浮世絵展」は、多くの来場者を得まして、その会期を無事終えることができました。関係各位には、深く感謝申し上げます。

今回の浮世絵展では、周辺河川の変化や、江戸時代の水運などもテーマのひとつにいたしました。奇しくも閉会後まもなく、台風十九号による河川の氾濫が相次ぎ、河川との関わり的重要性を改めて知った格好となつてしまいました。大きな災いを被つた地域には、より迅速な復興を祈念する次第です。

台風一過の十月十四日、地元町会と共催で、浅草観光連盟様の御協力を得て、「お月見の会」が百五十名ほどの参加者を得て、当山にて行われました。本堂にて「月待法要」を営み、広間にて、義太夫など、和の文化の催しを行いました。あいにくの雨模様で、屋外での法要はできませんでしたが、かつての日本人は、こうした行事を営みつつ、自然と一体となった生活を送っていたのかと思うと、感慨深いものがありました。早朝にお参りする御信徒の中には、本堂で参拝の後、お堂の周りを一周して、天狗坂付近で必ずお日様に手を合わせる方も多くいらっしゃいます。信仰を通して

自然を感じることも尊いことであると思ひます。天台宗には、「山川草木悉皆成仏」「一切衆生悉有仏性」

といった言葉があり、すべてのものに仏の教えが宿るといふ思想があります。自然の事象に神仏を感じることは、生きる大きな力になるのではないのでしょうか。被災された方々、またこれからいつ被災するかわからない私たちも、災難の瞬間には、「神も仏もない」「結局なるようにしかならない」と、厭世的な気分になるかもしれません。しかし、私たちに多くのことを伝える自然とは、共に生きていく覚悟が必要でしょう。

そして私たちが祈念するところの神仏の力というのは、私たちの一〇〇%の努力や奮闘に対してはたらくものであり、少しでもでも気が抜けていたら、思うようにはたらいただけなものではないかと私は思ひます。

高齢化社会が進み、もしかしたら今後、様々な場面での復興のスピードも鈍るかもしれません。温暖化への意識も含めて、若い世代もシニア世代も、一層の奮起が必要不可欠となりましょう。

「なるようにしかならない」という脱力感から、「なるべくしてなる」という緊張感へいつでも心が入れ替われるように信仰を深めていきたいものです。

待乳山便り

浮世絵展 報告

十一月十日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円

九月十四日より始まった第四回浮世絵展「待乳山・隅田川・山谷堀」はおかげさまでたくさんの方に会場いただき、十月六日に無事終了いたしました。

九月十四日には開白法要が盛大に行われ、浮世絵展の始まりを「待音連・猿若囃子」の祭囃子と「吉福社中」の狐の舞が飾りました。



九月十六日、二十九日には浮世絵展のたびに大好評の浅草寺教化部藤元裕二氏によるギャラリートークに、今年も多くの方が聞きに來られ、とても興味深い話にあつたという間の三十分を過ぎされました。最終日の十月六日には最後まで多くの方がご来場され、名残惜しまれながら終了いたしました。

開山会 ご報告 九月二十日、開山会大法要が行

われました。法要終了後は野点の席にて住職のお点前が披露され、参道の皆様にお抹茶の接待がありました。

十一月御縁日大法要・行事紹介

写経供養会

十一月十日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円

十一月十日、写経供養会を執行いたします。

仏道の実践には様々な方法がありますが、法華経法師品には、「受持」「読」「誦」「解説」「書写」の五つの修行をする人を「五種法師ごしゅほつし」と呼び、その行を行うことにより六根清浄ろくこんしょうじょう(眼、耳、鼻、舌、心、意の六つの器官が清浄になること)の功德が得られると説かれております。

当山の写経や勤行、法要で使われる般若心経をはじめとした仏教の經典は、日本語に翻訳された解説を読んで表面的な意味はわかって、本質を短期間で理解することは困難です。

何度も黙読し、声に出して読み、また書写をすることにより、仏様の深い教えを少しずつ身につけることが必要になります。

また写経に於いては、一字一字に心を込めて書写することにより得られる発見も一つの功德と言えるでしょう。

写経供養会では、今年度写経の会で奉納されたお写経を本堂ご宝前にて供養します。

また納経した巻数が五十巻ごとに達した方の表彰も行います。該当される方には、事前にお葉書にてご連絡いたします。おいでいただける方は、定刻までに本堂にお集まりください。

当日は通常通り写経の会を行う他、会員の方に記念品が授与されます。ぜひ法要と式典にもご参加ください。

畳講

十一月二十日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

今年も畳替えの時期となりました。

当山では新年を新しい畳で迎えるため、毎年本堂の畳替を行っております。

畳講ではお申込された皆様の家内安全、諸願成就を祈願する大般若法要を執行いたします。

畳講の翌日から二、三日間、本堂内の畳の張替作業を行います。通常通り御参拝はできますが、多少ご不便をおかけします。どうぞご了承ください



七月十四日、母里和磨ちゃんのお宮参り

を行い、行者様より御加持を授かりました。

尊天様の御加護で健やかに成長されることをお祈りしております。

七五三 受付中 七五三参りの予約を

受け付けております。特に土日はお申込みが多い場合がございますので、お早めにご予約ください。

ご志納金 五、〇〇〇円

星まつり受付案内

翌年の除災延命を祈願する星まつりの受付を寺務所にて開始いたしました。用紙に氏名年齢をご記入の上、お申込みください。

講金 一、五〇〇円(御一人増毎五〇〇円)



山谷堀の今昔⑤

浮世絵展も終わり、当コーナーも今回で最終回となります。

つくばエクスプレスの浅草駅から千束通りを進み、山谷堀公園を渡ると二〇〇メートルほど短い地方橋通りが続きます。

ちよūdōその通りに
かかっている橋が地方
橋、下流側に地方新橋
があります。

舞踊において踊る人
を「立方」演奏する人
を「地方」と呼び、そ
の地方衆が住んでいた
ことが、この地方新橋、
地方橋の由来であると
考えられます。

地方橋も山谷堀橋と同様に親柱に來歴が彫つてあり

「本橋、帝都復興事業トシテ改築シタルモノナ
リ 一、起工 昭和四年五月 一、竣功 昭和四
年八月 一、工費 貳萬四百圓」
とあります。

山谷堀橋の新設と同じ時期の工事ですが、こち
らは改築となっており、江戸時代の古地図にも地



地方新橋からみた地方橋方面

方橋と思われる橋は確認できるので、山谷堀橋や
聖天橋よりも歴史の古い橋であることがわかりま
す。

山谷堀公園は地方橋で終わっておりませんが、地
方橋の先には山谷堀最後の橋、日本堤橋がありま
した。

現在は親柱も残っておりませんが、地方橋から
そのまま進むと有名な見返り柳があります。

遊び帰りの客が、この見返り柳のあたりで遊郭
を振り返ったことから名付けられ、多くの川柳の
題材となりました。

地方橋から見返り柳へ向かう途中の右手に小学
校があります。

かつては待乳山小学校という名前でしたが、平
成十三年に田中小学校と合併し現在は東浅草小学
校となっております。

見返り柳からくの字に曲がる衣紋坂を抜けると
吉原大門跡があります。

大門を過ぎた土手通り沿いには、土手の伊勢屋
や桜鍋の中江など、東京大空襲の被害を奇跡的に
免れた数少ない老舗があり、両店舗とも国の登録
有形文化財に登録されております。

明治時代、吉原遊廓で遊ぶ持ち合わせのなかつ
た客が、自分の乗ってきた馬を売り、その馬の肉
で鍋を作ったのが桜鍋の発祥とされております。
スタミナを付けるといふ意味で使う「馬力をつ
ける」の語源は吉原の桜鍋から来ているそうです。

最盛期は近辺に二十軒以上の桜鍋の店が並んで

いたそうですが、その中の一軒がこの中江です。
老舗の二軒の先にはいるは会商店街があり、入
り口にはあしたのジョーが立っています。

作品中「泪橋を逆に渡る」というフレーズで有
名な泪橋は、山谷堀の先にある思川にかかつてい
た橋です。

現実の世界では、山谷の北にある小塚原刑場に
向かう罪人とその家族がこの泪橋で今生の別れを
迎え、お互いに涙を流したことから泪橋とつけら
れました。

山谷堀公園改修工事

山谷堀公園は平成二十九年より三期に渡って
上流側から改修工事が行われており、最終期の改
修工事が今年の八月からスタートしております。

最終期は待乳山に
一番近い今戸橋から聖天
橋にかけてのエリアで
来年の三月に終了予定
です。

来年の春には待乳山
に参拝の後、リニュー
アルした山谷堀公園で
お花見が楽しめそう
です。



十一月行事予定



写経供養会

十一月十日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円也

この一年で奉納された写経を供養します。また巻数達成者には表彰式があります。

御畳講大法要

十一月二十日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

本堂の御畳替えのご奇進をお願いいたします。

朝まいりり会

十一月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

十一月十日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽に参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十一月十日(日) 午前十時/午後二時 会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後の部は人が少ないため、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

十一月二十三日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

十一月二十五日(月) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

十二月の行事 御縁日大法要

御開扉

十二月八日(日)

午前九時〜午後二時

参拝 無料

星祭大法要

十二月二十二日(日)

午前十一時

講金一、五〇〇円也(一鉢増毎五〇〇円)

ご祈禱のご案内

祈禱料

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力により一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

別座祈禱 壺万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壺万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

お申込みください。

皆様からのご質問、お知らせになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。